上下水道界における産官学の連携の担い手として

～関西ウォータークラブ設立60周年記念特集～

関西ウォータークラブが1963年に発足して今年で60年の節目を迎えた。同ウォータークラブは、関西地方の上下水道関係者の交流の場としての役割を長年果たし、特に官民連携の素地を作ったことの意義は当地における多くの関係者が認識しているところだ。本紙では、同ウォータークラブ60周年特集を企画。水道関係主要団体からメッセージをお寄せいただいたのをはじめ、同様に中部・中国四国・九州の各地方で活動しているウォータークラブのトップにご参集いただき、さらには東北みずの会会長の西村東北大教授にもご参加いただく座談会を企画し、それぞれのウォータークラブの足跡とその果たす役割、存在意義の再確認を図った。

KWC60周年へのエール

日本水道協会理事長 **青木 秀幸**

高水準な水道を次世代へ
貴重な意見交換・研鑽の場

このたび、関西ウォータークラブが設立60周年を迎えられましたことに、心からお慶びを申し上げます。

昭和38年に貴クラブが発足されて以降、我が国の水道事業は、急速な人口増加・都市化に伴う施設の拡張期、そして、高普及を迎えた維持管理・更新時代への変遷など、めまぐるしい進化を遂げました。

こうした激動の時代にあって、世界に冠たる高水準な水道システムを実現できましたのは、貴クラブをはじめ多くの関係の皆様のご尽力の賜物と深く感謝申し上げる次第です。

一方で、現在の水道事業を取り巻く環境は、人口減少に伴う料金収入の低迷や老朽施設の更新・再構築、激甚化・頻発化する災害への対応など、厳しさを増しています。さらには、来年4月からの国の水道行政移管を控え、水道界は時代の大きな転換点を迎えています。こうした中、先達の築き上げてきた高水準な水道をしっかりと次世代へ引き継いでいくためには、関係者の連携と英知の結集が不可欠です。

貴クラブは、水道事業体の現役・OBや産業界の方々が幅広く親睦を図ることを目的に設立され、以来、貴重な情報交換・研鑽の場として、活動してこられました。現在も、総会や例会、さらには、賀詞交歓会などの場を通じて、関係者が忌憚のない意見交換を図り、顔の見える関係を構築できることは、大変重要な意義を持つものと考えております。

私も理事長に就任し、賀詞交歓会に参加させていただきましたが、関西地区の多くの関係者が一堂に会する大変活気あふれる会となっており、水道界の熱き想いを実感することができました。

当協会としても、引き続き、貴クラブをはじめ関係各位との一層の連携のもと、鋭意取り組みを進めてまいりたいと考えておりますので、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、貴クラブにおかれましては、水道界の橋渡し役として、益々発展されることをご期待申し上げますとともに、関係各位のご活躍を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

5団体のトップが参集し、地域間連携の意義を再確認

座談会

ウォータークラブの足跡と存在意義について語り合う

座談会の開催趣旨と団体間交流への期待

―本日はお忙しいところ、関西ウォータークラブまでお越しいただき、有難うございました。本日は、その歴史と活動趣旨に多々相通ずるものがある各団体のトップの皆さんにご参集いただき、それぞれの団体の設立経過や活動内容について情報交換いただくとともに、今後の連携のあり方について意見交換いただければと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

それでは、まず、玉井理事長から皆さんへの歓迎のご挨拶をお願い致します。

玉井理事長 本日は、公私ともにお忙しい中、中部・中国四国・九州のウォータークラブ、そして東北みずの会のご代表の方々には、私ども関西ウォータークラブ、KWCサロンにようこそお越し下さいました。関西ウォータークラブを代表致しまして、心から歓迎を申し上げます。

皆様方には、平素より、水事業の推進にご尽力され、その発展にご貢献されるとともに、わがKWCにも、ひとかたならぬお力添えをいただき、敬意と感謝を申し上げます。お陰をもちまして、KWCも創立60周年の節目を迎えることができました。有難うございました。ご案内のように、新型コロナウイルス感染症につきましては、3年以上にもおよぶ長い期間にわたって猛威を振るい、実際私どもの活動も、講演会の中止や書面・ウェブでの審議など様々な影響も受けたところです。本年5月には、感染症法上の位置づけが「5類」に移行されたものの、まだまだ収束しているとは言い難い厳しい状況にございますが、我々の日常生活としてはほぼ通常に戻り、都市部や多くの観光地では、外国人観光客をはじめたくさんの人で大いに賑わいをみせています。ただ、ウィズコロナの中にあって、お互いに十分な健康管理だけは怠らないようにしたいと存じます。

―続いて、玉井理事長から、この座談会の開催趣旨についてご説明いただければと思います。

玉井 皆様方には、KWCの60周年記念事業として、この座談会にご参集いただいたわけですが、私自身、60周年を機に、今一度これまでのKWCの取り組みを振り返った時に、自らの課題意識として、その活動内容にさらに広がりと深みを持たせ、中でも官民、産官学の連携の強化などに力点を置いた活動の一層の活性化、すなわち内面を充実させることに加え、同じ志をもつ地域ウォータークラブとの広域的連携をも図りたいと考えております。水道事業そのものにおいても、今日では、市町村のエリアにとどまらず広域的な運営が叫ばれるとともに、特に防災・災害支援などは、地域を越えた全国レベルでの相互の活動が定着しています。このことに認識からも、KWCと致しましても関西のエリアにとどまらず、地域ウォータークラブとの積極的な意見交換・情報交流を通して、課題解決のためのヒントや知恵をいただきながら自らの活動に磨きをかけるとともに、会員同士の情報交換や親睦を図ることで各々のウォータークラブが、そして個々の会員の一層の活力アップにつなげることができればと考え、ウォータークラブ間の横の連携、広域的連携の実現を念願しているところです。その第1弾がこの座談会との思いで、皆さんにお声掛けしたところ、ご賛同・ご参集いただき、改めて感謝申し上げますとともに、忌憚ない意見交換ができればと考えております。本日は宜しくお願い致します。

各クラブの沿革と主な活動内容

―それでは、まず、簡単な自己紹介をお願い致します。

玉井 昭和55年4月に大阪市に奉職し、当初の10年間は人事行政を司る部署におりました。以降は、教育委員会や環境局、水道局に勤務し、学校教育・生涯学習、廃棄物の処理・エネルギー政策、上水・工業用水道事業など、いずれも、関係法令により自治体の責務と規定され、市民生活や地域・社会経済活動に密着した事業に従事して参りました。平成25年4月から水道・工業用水道事業管理者に就任し、同職をもって平成29年3月に大阪市を退職致しました。その後、㈱大阪市開発公社代表取締役社長を令和4年6月まで務めた後、現在は㈱石垣に顧問としてお世話になっております。関西ウォータークラブとは、事業体登録会員を経て、平成30年度より「理事長」を拝命し、現在に至っております。創立60周年という節目の中で、その任務を果たせることは光栄の極みです。

山田理事長 昭和46年に名古屋市に入っていますが、大学時代に公害対策に強い関心を持っていた中で、学術分野ではなく実務を志向していたために市への就職を選びました。日本下水道事業団への2年間の出向も含めて長く下水道の仕事に携わってきました。その後、市の総務局の企画部門で総合計画や情報化に関わる仕事を経て平成15年に上下水道局長に就任し4年間務め、続いて副市長を平成23年3月までやはり4年間務めました。

宮本理事長 昭和50年に拡張事業真っ只中の広島市水道局に入局して、土木技術者として38年間水道一筋で、平成25年3月に退職することができました。その年の4月から日本ダクタイル鉄管協会の中国四国支部に支部長として6年間、その後の非常勤の顧問も含めると10年間、お世話になりました。日本ダクタイル鉄管協会の支部長は中国四国ウォータークラブの事務局長を務めるのが慣例となっており、私も6年間の事務局長、1年の副理事長を経て現在、理事長に就任して4年目となります。

井上会長 まずは、昨年8月に開催致しました当クラブ創立50周年の式典に多くの方々にご参加いただけたことをこの場をお借りして御礼申し上げます。有難うございました。

さて、私は昭和50年に土木職として福岡市に入庁し、都市計画課で長くまちづくりを担当しました。都市計画部門の課長、部長、局長も務め、市に在籍した40年のうち、31年はまちづくりに携わりました。その後は道路下水道局長を2年、水道局長を2年務めました。初めて水道局に来た時はその独特の文化に違和感を持ち、良い面もあれば悪い面もあると感じていましたが、職員の漏水事故対応などに触れて、使命感と一体感の強さを強く実感しました。市役所退職後は、港湾関係の倉庫業の社長をしていましたが、民間企業の多様さに触れて役所の世界は寧ろ少数派であることを実感させられました。

―本日は、東北みずの会の西村先生にもオブザーバーとしてご同席いただいておりますので、同じく簡単な自己紹介をお願い致します。

西村会長 東北みずの会は平成26年発足で、まだ10年にも満たず、皆さまの団体の歴史には遠く及ばぬヒヨッコですので、今日は多々勉強させていただければと思っています。私自身も昭和35年生まれの皆さまからすれば若輩者で、経歴としては国環研に出向した4年弱、JICA専門家としての1年を除けば東北大学大学院での研究・教育活動に従事してまいりました。土木工学の中の水道・下水道、さらには水環境といった分野を中心に研究させていただいております。東日本大震災の時は、今日お集まりの皆さまの地域をはじめとする全国各地の水道関係者が支援に尽力され、各地の給水車を目にするたびに感謝・感激の思いでいたことを今でもよく憶えております。

―続いて、各クラブの沿革についてご紹介下さい。

玉井 KWCの創立は昭和38年9月1日です。当時、水道産業新聞社では、読者との文化的な架け橋としての役割を果たすべく、写真撮影会やゴルフ会、囲碁大会、旅行会などを積極的に実施していましたが、それらをより活発に、そしてもっと幅広く親睦を図ることのできる会をという声の高まりを受けて、創業者である同社の河添社長が、大阪府・市の水道部署のトップらと相談の上で、本格的な親睦団体として官民一体の組織の創設を企図し、奈良市をはじめ複数の水道事業体のほか、企業からは久保田鉄工（＝現クボタ）や栗本鐵工所、大成機工、横手産業など多くの方々の協力の下、関西ウォータークラブが誕生しました。当初の会員数は、個人23名、団体49名の計72名で、以降、講演会を中心とする例会を積極的に開催するとともに、昭和54年には、会員が気軽に集まることのできる場所として「KWCサロン」を開設し、囲碁同好会や俳句会、英会話など多くの会員の利用に供する機会を設け、官民一体の連携機運の醸成の場となりました。

改めてこの60年を振り返りますと、日本は昭和39年の東京オリンピック、昭和45年の日本万国博覧会などの大規模な国際イベントが開かれ、それと軌を一にして高度経済成長期における急激な水需要への対応を見据えた施設の拡張等に、多くの水道人が力と知恵を注いだ時代であったことは、皆さんもご承知の通りです。

山田 中部ウォータークラブの設立は、関西ウォータークラブより少し遅れて昭和42年となります。当時は限られた人数の会員限定のサロンのようなものでした。それが今では90余の団体から130人、さらに個人会

次頁に続く

KWC60周年へのエール

日本下水道協会理事長 **岡久 宏史**

産官学の交流をさらに
上下水道事業の新たな時代へ

関西ウォータークラブの設立60周年、誠におめでとうございます。

関西ウォータークラブは、昭和38年9月、上下水道界の産官学の幅広い交流と親睦を図るための会として当時の水道産業新聞社の河添社長さんを中心に、水道事業者、民間企業の方々の協力のもとに発足した会であるとお聞きしております。

昭和38年といえば、下水道の普及状況は微々たるもので処理人口普及率は5%程度、下水道の整備はまだまだ黎明期にありました。その後、下水道の早急な整備が求められ、国を挙げて本格的な整備促進への号砲が鳴らされたのが昭和45年であることを思いますと、貴クラブが発足された時期の早さに大変驚いております。

さて、貴クラブが60周年を迎えたこの年、上下水道を取り巻く状況は大きく変化し、上下水道事業は歴史的な大転換期を迎えようとしています。

先ずは何といっても一番大きな変化は、水質・衛生に関する事務を除く水道行政が国交省に移管されることです。上下水道事業を国土交通省が管轄することになり、事業主体である地方公共団体を上下水道一体的に支援することになります。国土交通省と地方公共団体がパートナーとして一体となって上下水道事業が施行される時代を迎えます。

そして、もう一つの大きな変化は、ウォーターPPP制度が創設されたことです。この制度によりPPP／PFI（官民連携）のさらなる促進が図られることになります。

令和6年度、上下水道行政が一つになり、PPP／PFIが加速される新たな時代を迎えます。

つまり、産官学の交流の場である関西ウォータークラブにとっては、その役割を今まで以上に発揮すべき時代を迎えることとなります。今後の貴クラブの益々のご活躍とご発展をご期待申し上げます。

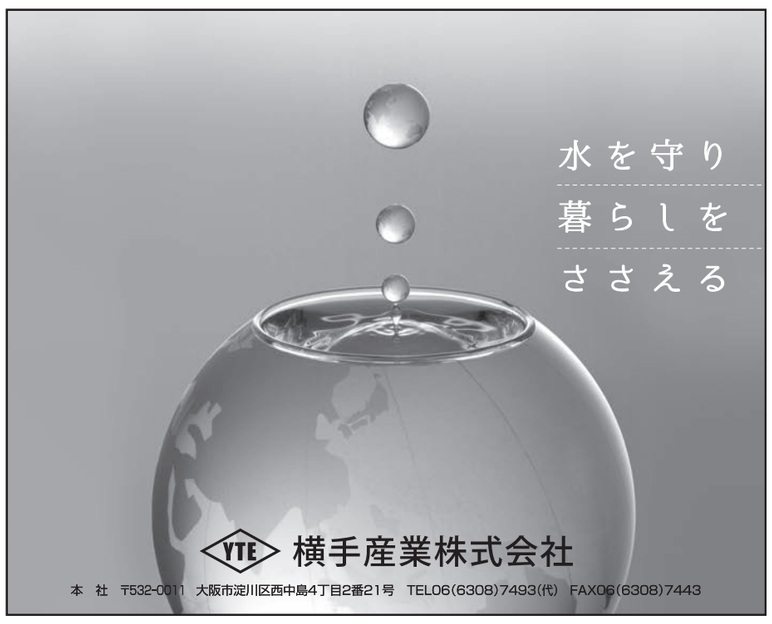
そして、産官学の方々が参加されるクラブとして上下水道界をさらに力強くけん引していただきますようご祈念申し上げます。

第61回定時総会・講演会（2023年5月9日）には会員ら150人が出席

出席者

関西ウォータークラブ理事長 **玉井 得雄** 氏
中部ウォータークラブ理事長 **山田 雅雄** 氏
中国四国ウォータークラブ理事長 **宮本 晃** 氏
九州ウォータークラブ会長 **井上 隆治** 氏
東北みずの会会長 **西村 修** 氏（＝オブザーバー）

司会＝関西ウォータークラブ専務理事（水道産業新聞社代表取締役）福島真明



の連携の担い手として

設立60周年記念特集～

前頁から続く

員も加えた約150人の会員数となっています。

趣旨として、「総合的な親睦団体」を謳っており、日本舞踊家や写真家、役所の偉い人など多様な層を講師にお招きした講演会を開催するなどして、官民関係者の交流を図っています。そうした中、官については水道・下水道の線を引くことはないと考えており、民においては当然上下の別はなく、その点からも企業の参加メリットはあると思っています。

宮本　設立は昭和44年で、その際には関西、中部の両クラブからの呼び掛けがあったと聞いており、その際、発起人の一人は河添氏でした。こうした経緯もあり、先輩クラブをお手本に運営しており、設立目的も、難しいことはせずにまずは楽しくという親睦会的なものでした。海外旅行に一緒に行くようなこともしていました。それが一時期から会員数と行事への参加者が減少して、その対策として、それまでは個人会員として参画していた事業体のあり方を見据えて「事業体会員」という枠を作りました。これを受け、「事業体からの参加者が増えるのであれば」と団体（企業）会員も増えて、活性化しました。それまでは、日水協の県支部長クラスの大きい所からの参加にとどまっていたものが、中小規模事業体も含めて交流が可能になりました。今後は官民に加えて学との交流も志向したいと考えています。

井上　発足は昭和48年で、前年の沖縄県の復帰も一つの要因になっているようです。当時の発起人の弁によりますと、「水道人としての潤滑油としての役割を担う」とあり、水道分野の官民交流の場という位置づけになっています。私自身、福岡市の水道事業管理者に就任した時は、他分野からの「目」もありますので、少なからぬ警戒感があったのが正直なところです。また「水道人」と銘打っているように、下水道とは違った文化があるように感じています。

西村　先程も申し上げた通り、発足から日は浅いのですが、皆さまの団体と異なる点は、初代会長が東北学院大学の石橋先生で、私が2代目ということで、学界関係者が会長を務めていることです。また、個人参加を旨としており、100名を超す方々にご参加いただいております。会員は事業体の方も多々おられる一方で、仙台市の方が少ないのは課題と認識しています。一方で、小規模事業体の参加者も多く、こうした事業体の方々の交流によって人口減少に起因する様々な課題認識の共有の場になっています。設立して最初のフォーラムも「人口減少」をテーマに開催しております。今年は、水道技術研究センターの安藤理事長にご講演いただきました。8月には夏の例会を開催しておりますが、ここでは、水に関する事業とは全く違った分野で活躍されている方を講師に招聘した講演会を開催しており、今年は城郭に造詣の深い歴史の専門家に講演いただきました。このほか、最近の講演では、民放アナウンサーや元阪神タイガース球団社長、吉野山金峯山寺宗務総長らを講師としたほか、動物園の魅力

賀詞交換会（2023年1月10日）に関係者約400人が参集

関西ウォータークラブ60周年に寄せて

日本水道協会関西地方支部長　都市・大阪市水道局長　谷川　友彦

関西ウォータークラブが設立60周年を迎えられましたことに心からお祝いを申し上げますとともに、今日までの長きにわたる関係者の皆様のたゆまぬ御尽力に深く敬意を表する次第です。

貴クラブが設立された1963年は高度経済成長期の真っ只中であり、翌年に東京オリンピックの開催を控え日本全体に活気が満ち溢れていた時代でした。経済成長に合わせて水道普及率も急激に上昇し、終戦直後の1950年では26・2%であったのが大阪万博が開催された1970年には3倍を超える80・8%となり、今では98%を超えるまでに至っています。これは

官民連携の牽引役として

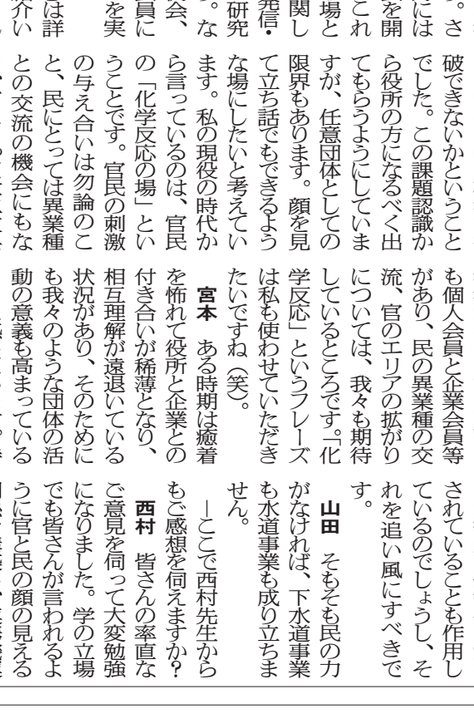
相互に連携し管理者講習会

ひとえに、貴クラブをはじめとする各地方の水道関係者が、まちの成長発展に不可欠な社会インフラである水道の整備に官・民の垣根を越えて相互に連携・協力しながら、それぞれの立場で心血を注がれ邁進されてきた賜物と存じます。

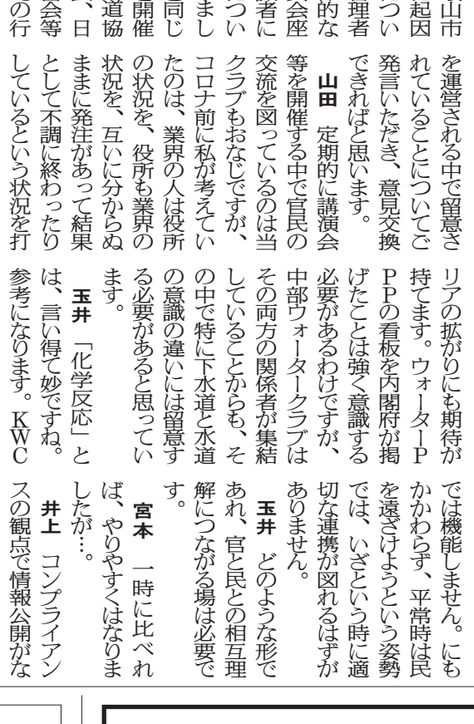
近年、水道事業は、人口減少による給水収益の減少が見込まれる一方で、高度経済成長期に一気に整備してきた施設の経年化に伴う更新需要や頻発する地震や集中豪雨などの自然災害に対する強靭化需要の増大、物価高騰に伴う諸費用の増加などに対応していく必要があり、大変厳しい経営環境にあります。また、我が国では今後人口減少と共に少子高齢化が一層進み、2040年問題といわれるように、65歳以上の人口が2040年頃にピークを迎え生産年齢人口の減少による労働力不足の深刻化が懸念されており、水道事業体においてもベテラン職員の退職に伴う職員の技術力の低下が懸念されます。

日本水道協会関西地方支部では、こうした水道事業体が抱える共通の課題について認識を共有し、その解決に向けた端緒とするため、2008（平成20）年度以降、貴クラブの「秋の例会」との共同開催という形で相互に連携しながら事業管理者層向けの「管理者講習会」を実施しているところです。水道はいつの時代においても日常生活や社会経済活動に不可欠な基幹ライフラインであり、今後とも安全で高品質な水道水を安定的かつ将来にわたって持続的に供給していくためには、こうした官・民の連携を一層強固なものとしていく必要があります。

関西ウォータークラブにおかれましては、引き続き、会員相互の交流と研鑽の場として、また、官・民の連携・協力の牽引役として、関西のみならず我が国全体の水道事業の発展に大いに貢献されることを期待申し上げますとともに、次の節目である70周年、そして100周年に向けて、今後益々発展されますことを心より祈念いたしております。



山田氏



玉井氏

今後は地域を超えた連携を…玉井

官民の「化学反応」の場に…山田

↙アップやプロ将棋士の「先の読み方」、また人財育成の観点からコミュニケーション術に磨きをかけるなど、幅広い題材での講演会としております。11月に開催している秋の例会は、日本水道協会関西地方支部との共催で管理者講習会をも兼ねた講演会を開催しています。これもKWC活動の特色の一つと言え、平成20年度以降、この方式での開催となっております。水道事業に関するタイムリーな課題を題材とする研修の場とし、昨年の例会では、和歌山市の水管橋崩落事故に起因した大規模な断水について、和歌山市企業管理者による事故後の具体的な対応と事故調査委員会座長を務められた学識者による原因の究明等についてお話しいただきました。1月は皆さんと同じく新年賀詞交換会を開催しており、日本水道協会、日本下水道協会、日本水道工業団体連合会等水関連団体と合同での行事となっております。さらに、年度末の3月には平成31年から講習会を開催しております。これは、官民連携強化の場として、水道事業に関して、官民相互の情報発信・共有のための講演、研究発表を行うものです。なお、総会、夏・秋の例会、講習会終了後は、会員による「意見交換会」を実施しております。

―玉井理事長からは詳細な活動内容をご紹介いただきましたが、皆さんからは特徴的な活動や会を運営される中で留意されていることについてご発言いただき、意見交換できればと思います。

山田　定期的に講演会等を開催する中で官民の交流を図っているのは当クラブもおなじですが、コロナ前に私が考えていたのは、業界の人は役所の状況を、役所も業界の状況を、互いに分からぬままに発注があって結果として不調に終わったりしているという状況を打破できないかということでした。この課題認識から役所の方になるべく出てもらうようにしていますが、任意団体としての限界もあります。顔を見て立ち話でもできるような場にしたいと考えています。私の現役の時代から言っているのは、官民の「化学反応の場」ということです。官民の刺激の与え合いは勿論のこと、民にとっては異業種との交流の機会にもなり、官にとっては三重県や岐阜県など連携するエリアの拡がりにも期待が持てます。ウォーターPPの看板を内閣府が掲げたことは強く意識する必要があるわけですが、中部ウォータークラブはその両方の関係者が集結していることからも、その中で特に下水道と水道の意識の違いには留意する必要があると思っています。

玉井　「化学反応」とは、言い得て妙ですね。参考になります。KWCも個人会員と企業会員等があり、民の異業種の交流、官のエリアの拡がりについては、我々も期待しているところです。「化学反応」というフレーズは私も使わせていただきたいですね（笑）。

宮本　ある時期は癒着を怖れて役所と企業との付き合いが稀薄となり、相互理解が遠退いている状況があり、そのためにも我々のような団体の活動の意義も高まっているように感じています。特に災害時は役所の者だけでは機能しません。にもかかわらず、平常時は民を遠ざけようという姿勢では、いざという時に適切な連携が図れるはずがありません。

玉井　どのような形であれ、官と民との相互理解につながる場は必要です。

宮本　一時に比べれば、やりやすくはなりましたが…。

井上　コンプライアンスの観点で情報公開がなされていることも作用しているのでしょうし、それを追い風にすべきです。

山田　そもそも民の力がなければ、下水道事業も水道事業も成り立ちません。

―ここで西村先生からもご感想を伺えますか？

西村　皆さんの率直なご意見を伺って大変勉強になりました。学の立場でも皆さんが言われるように官と民の顔の見える関係を構築し、連携機運が醸成できればと思っています。そうした観点でフォーラムなども企画しておりますし、例えば、第2回のフォーラムでは、そのテーマは、「若い力が未来を拓く」↖

主な活動内容と課題

―ここからは、各団体の活動内容をご紹介いただきながら、現状における課題についても整理できればと思います。まず、関西ウォータークラブの活動内容についてご紹介下さい。

玉井　当クラブの定例行事としては、5月に総会を開催して事業計画・予算やその他重要案件の審議を行うとともに、講演会を開催しており、今年は城郭に造詣の深い歴史の専門家に講演いただきました。このほか、最近の講演では、民放アナウンサーや元阪神タイガース球団社長、吉野山金峯山寺宗務総長らを講師としたほか、動物園の魅力

HINODE

日之出水道機器株式会社

代表取締役社長　浅井　武

本　社　福岡市博多区堅粕5丁目8番18号（ヒノデビルディング）TEL（092）476-0777
https://hinodesuido.co.jp/

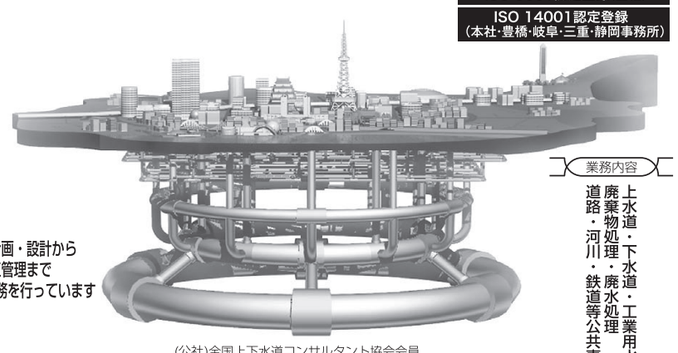
水を操る技術がある。

イシガキは水に関わるエンジニアリングで
自然環境と社会を支えています。

ISHIGAKI　株式会社　石垣　www.ishigaki.co.jp
［本社］東京都千代田区丸の内1-6-5　TEL.03-6848-7900

水と生きる

ISO 9001認定登録（全社）
ISO 14001認定登録（本社・豊橋・岐阜・三重・静岡事務所）



調査・計画・設計から施工管理まで一貫した業務を行っています

業務内容
上水道・下水道・工業用水道
廃棄物処理・廃水処理
道路・河川・鉄道等公共事業全般

（公社）全国上下水道コンサルタント協会会員
人・街・自然・いきいき
中日本建設コンサルタント株式会社
代表取締役社長　庄村昌明

品質方針／顧客に信頼と満足を提供　品質目標／顧客第一、品質向上、社内協調

本　社／〒460-0003　名古屋市中区錦1丁目8番6号（ONEST名古屋錦スクエア）　☎052-232-6032(代)
東京支社／〒102-0076　東京都千代田区五番町14（国際中正会館ビル）　☎03-6261-3710(代)
大阪支社／〒540-0026　大阪市中央区内本町1丁目3番5号（いちご内本町ビル）　☎06-4794-7001(代)
事務所／札幌・仙台・茨城・取手・群馬・北関東・千葉・鎌ヶ谷・神奈川・新潟・佐渡・静岡・三島・長野・飯田・豊橋・岐阜・三重・伊賀・富山・福井・嶺南・京都・滋賀・奈良・神戸・岡山・広島・和歌山・鳥取・島根・山口・岩国・松山・徳島・香川・九州・熊本・長崎

次の100年を支える耐震管
HPPE　水道配水用ポリエチレンパイプ
Higher Performance Polyethylene

POLITEC　配水用ポリエチレンパイプシステム協会
〒101-0036 東京都千代田区神田北乗物町7番地 KSビル
TEL.03-5298-8855　FAX.03-5298-8856

ラインナップ拡充!!
COSMO
ダクタイル鋳鉄管用 不断水仕切弁
コスモソフト

〈コスモソフト〉
不断水バルブは、大きく分類すると規格型の仕切弁を不断水で挿入する本バルブ型と、簡易に使用する目的の安価な簡易バルブ型があります。コストや掘削面積の制限、施工時間の制限などで簡易仕切弁を採用する事業体が数多くあるなか、コスモソフトは簡易仕切弁と同様の施工形態で施工を行うことで、従来の不断水仕切弁よりも低コストを実現させた不断水仕切弁です。

〈コスモソフト耐震型〉
コスモソフトは、JWWA規格仕様に準拠したソフトシール弁を不断水で設置でき、浅層埋設に対応し取付施工の簡素化を実現しております。この度、コスモソフトの離脱防止金具を耐震タイプに変更することで、離脱防止力3DkNを確保できる「コスモソフト耐震型」をラインナップに追加致しました。

※特許取得済

コスモ工機株式会社　ISO 9001認証取得　https://www.cosmo-koki.co.jp/
本　社　〒105-0003 東京都港区西新橋三丁目9番5号　TEL.(03)3435-8805　FAX.(03)3435-8825
支店／営業所　札幌・秋田・仙台・新潟・東京・名古屋・北陸・大阪・岡山・広島・四国・九州

災害に強いダクタイル鉄管

一般社団法人
日本ダクタイル鉄管協会
https://www.jdpa.gr.jp

会　長　吉岡　榮司　　理事長　田村　聡志

■本部・関東支部　〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-9（日本水道会館）
TEL03（3264）6655(代)　FAX03（3264）5075
■北海道支部　TEL.011（251）8710　■関西支部　TEL.06（6245）0401
■東北支部　TEL.022（261）0462　■中国四国支部　TEL.082（545）3596
■中部支部　TEL.052（561）3075　■九州支部　TEL.092（771）8928

上下水道界における産官学

～関西ウォータークラブ

井上氏

宮本氏

官民に加え学との交流も…宮本
水道人としての潤滑油に…井上
様々な課題認識を共有…西村

↙とし、20代から30代の官民、さらには新聞社の方にも加わっていただき、意見交換していただきました。「水道をやりたい」という学生が増えてほしいという思いで企画しました。学生の関心がこの分野に向かないのは、その実態はもとより、仕事としての魅力を知らないことによるものと学の立場で感じています。これは、私自身の反省点でもあり、学としての情報の与え方についても考察していきたいと思っています。

―必要に応じて質疑応答もしていただければと思いますが…。

山田 先程、宮本理事長からご紹介いただいた事業体会員ですが、会費も徴収しているのでしょうか？

宮本 無料にして入会しやすくしています。ただ、懇親会については会費をいただいています。そうした中、事業体幹部が本音で語り合える場の提供などで工夫しています。他部門から水道事業管理者に就任された方も、最初は構えておられる方もおられますが、参加してみて喜ばれる方は多いですね。

山田 やはり、フェイス・トゥ・フェイスは大切です。一般的に知らない人より知った人が有利ということもありますね。

―各団体の共通点と相違点がある程度確認できたと思いますが、それを踏まえた意見交換もいただけますか？

山田 中国四国ウォータークラブは、日本ダクタイル鉄管協会の支部長が事務局長を務められているということは、あくまでも水道の団体ということでしょうか？

宮本 団体（企業）会員は水道と下水道の両方に関わっていますが、個人会員や事業体会員は水道です。

井上 我々も発起人の言葉に「水道人」という言葉が明記されているように水道の団体です。

玉井 下水道にも門戸を開いていますが、やはり、水道に軸足が置かれています。国の水道行政が移管される来年度以降のことを思うと、今後のあり方については検討する必要はあると認識しています。

山田 あとは、産官学と言いながらも学界との接点は少ないですね。

井上 当クラブも同様で、講演などをお願いする程度にとどまっています。

宮本 我々も同様ですが、先程も申し上げたように、今後は学との連携も視野に入れたいとは考えています。

玉井 私も自治体に所属していた時には学識者の方々とも浅からぬ縁がありましたが、今のKWCの現況では官民の連携が主軸となっていますね。

山田 今後は大学をはじめとする学界の先生との関係性をもっと深めたいですね。

今後の展望

―それでは、最後の懇談項目として、課題解決も念頭に今後を見据えて意見交換いただければと思います。

玉井 大きな課題として、会員数の減少という問題があります。ピーク時の平成12年には260人だったものが176名にまで減少しています。その一方で、企業会員は近年増加傾向にあるので、これを一つのチャンスとして前向きに受け止めていきたいと思います。このため、企業会員からの発信の場をより積極的に設け、技術力や企業精神などをアピールいただくなど先に申した官民の連携を一層強化する一助にもしたいと考えています。また、講演会については、どうしても一方通行になりがちなので、テーマや内容でさらなる工夫が求められるように感じています。個人的には、先程の西村先生のフォーラムのお話にもあったようなグループ討論の場も時には設けたいと思っています。そして、講習会ではこれまでは官側からの発信が主だったわけですが、今後は例えば防災等をテーマに双方向での討論、あるいは学にも加わっていただけるような機会を増やせればと思いますし、あるいは、企業の工場など官民合同の視察などもできればと思います。以上が当クラブの「内面」の充実に向けた考え方ですが、併せてさらなる拡がりも考えていくべきです。官民連携は当然のこととして、下水道関係団体との関わり方についてもしっかり検討する必要があります。そして、本日の座談会のテーマにも掲げさせていただいたお集まりの皆さんとの連携、すなわち地域を超えたウォータークラブ間の連携も非常に重要なことと思っていますので、皆さんのご意見もお聞きしながら具体的な取組みを模索していきたいと考えています。

山田 ウォータークラブ間の意見交換の重要性を、私も今日のこの語らいによって再確認致しました。中国四国ウォータークラブの事業体会員制度は参考になりましたし、学との交流の大切さも再認識しました。

宮本 会員の減少と並ぶ重い課題は、活動そのものの正常化です。コロナ禍による会員間の交流の稀薄化をとにかく元に戻すことです。それに併せて会員数や講演のあり方などを検討していきますが、個人会員の自然減も顕著になりつつあり、その原因として個人会員の会費等の負担が考えられますので、その対策が必要と思っております。講演については、学識者に「水」に関わるお話や事業体、もしくは会員企業からの情報提供が主になりますが、新たな工夫も講じる必要があります。

井上 やはり、会員数の減少は大きな課題です。124名で発足し、その後の30年は増加し続けてピーク時は200名を数えましたが、その後減少に転じ、現在は個人67、団体74の141名となっています。これ以上減ると厳しいものがありますが、若い人の関心も薄く、さらには九州と言いながらも実質的には会員の9割が福岡市に偏在しており、福岡ウォータークラブの様相を呈しています。そうした中で、研修や講演会などの充実に努めているところですが、企業でも若い社員の転職が課題になっていると聞いておりますので、そうした課題認識を取り込んだ上での外向けのPRが必要と感じています。↖

―共通の課題の一つである会員数を増やすファクターとしての講演のあり方についてのお考えはいかがでしょうか？

山田 西村先生が言われた、若い人に注目してもらえる働きかけも大切です。自治体職員には、本当は都市計画をやりたかったが、水道に来てしまったというような人も多いわけで、我々の大先輩の西尾元市長もそうだったと言いますが、当初から水をやりたかったという人も欲しい。中部には、化学反応のプラットフォームであるウォータークラブとは別に産官学による連携でなされるビジネスのプラットフォームもあります。この活動についても共有させていただき、皆さんとの連携を深められればと思います。また、皆さんの所は、水道に特化、あるいは軸足を置いた団体であるわけですが、確かに、水道と下水道とではそれぞれ固有の文化があるものの、最近では下水は「資源の宝庫」という新たな文化が育まれつつあります。どのように資源を作るかという観点では水道も下水道もない、要は、「水のエンジニアリング」という概念が必要です。

玉井 私自身、水道局長時代には、淀川最下流を水源とする事業環境故に職員には下水道事業に対する理解を深めるよう求めていました。いずれにせよ、下水道分野も含めた拡がり、そして、若い人に目を向けてもらえるような年齢層の拡がりを念頭に講演等を工夫していく必要性を改めて認識しました。

宮本 やはり、事業体の関係者が多く来られるような内容が求められます。併せて、若い人に興味を持ってもらえることも必要です。単に面白さだけを追究すると、事業体の人が来にくくなってしまうという難しさがあります。

玉井 テーマに加え、どんなスタイルが良いのか？特に、会場に来られた多くの人に発言いただける機会を設けることも意識したいと思います。

井上 講演とは異なりますが、去年は50周年記念誌の中で、官民関係者による座談会を、幹部と若い人の2つの層で行いました。

玉井 なるほど…。会員の「声」が出せる雰囲気作りも大切ですね。

井上 官民連携へのニーズは高く、双方でそれを念頭に置いた懇談会に対する要望は寄せられています。

西村 フォーラムには、東北各県から来ていただいています。そして、遠くから講師をお招きして講演やパネルディスカッションなどを実施しており、テーマも水道法改正や宮城県のコンセッションなど時宜に適ったテーマ設定を心掛けています。その中で、言いたいこと聞きたいことの意見が多数出て、議論が活性化しています。今後は、会員の所属する企業による横の連携のあり方なども模索しているところです。今後も皆さまとも交流させていただき、より良い運営を心掛けられればと思います。

宮本 こうして皆さんのお話をお聞きしていると、ウォータークラブの連携を形として残せればと思います。

山田 東北みずの会も加えた5団体の協議会などもできれば良いですね。

井上 これを機会に定期的に交流することは意義深いと思います。

玉井 有難うございます。皆さんの仰る通りです。冒頭にも申し上げましたように、今日はそのスタートラインだと思っています。4つのウォータークラブが連携すれば、西日本全体の連携基盤にもなり得ます。加えて、東北みずの会も加わっていただければさらなる拡がりが実現します。交流研修会や施設見学会などを持ち回りで行うのも一考でしょう。各団体の事務局への負担感にも配慮しながら年に1度でも交流できればいいですね。官民はもとより、官官、民民、産官学、そして地域と地域とのつながりです。そのためにも、それぞれの団体への参加意識を高めることが求められます。今日は理事長、会長による会合でしたが、ウォータークラブの各層での交流なども含め、早速にでも具体的な実践につなげていけるよう、この先取組みを進めて参りたいと存じますので、皆様にはよろしくお願いいたします。

―今日は、各団体の存在価値を高めるための知恵の共有が図られたと思いますし、何よりも相互の連携の深化の必要性を強く実感できました。玉井理事長のご提言にもありましたように、今後は各団体の各層における交流も視野に連携が深まることに期待したいと思います。活発なご討議、有難うございました。

西村氏

関西ウォータークラブ60周年に寄せて

日本水道工業団体連合会 専務理事 宮﨑 正信

関西ウォータークラブ60周年まことにおめでとうございます。これまでの歩みの中で、会員の教養知識を深め、会員相互の研鑽を図り、水に関する事業の発展に寄与すると会則にあるように、数多くの成果があったことと思量します。新年恒例の賀詞交歓会にも毎年のように参加させていただきお礼申し上げます。

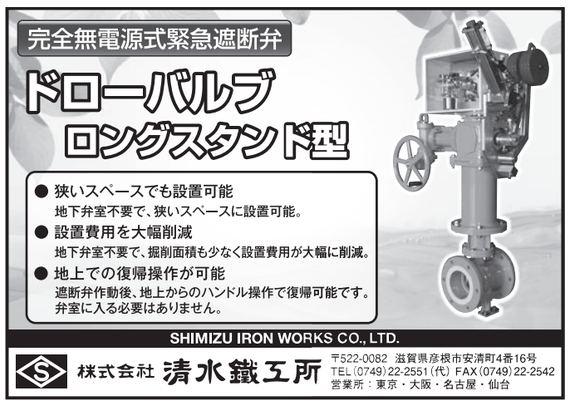
この60年で我が国社会は大きく変貌してきました。高度経済成長に伴う公害問題、社会経済発展のためのインフラ整備、その後の人口構造の変化に伴う医療・年金・介護等の課題になんとか対応しつつ、現在に至ったわけですが、それと並行して社会インフラの一つである水道の課題も大きく変貌を遂げてきました。つまり人口・給水量の急増に対応するための普及拡大の時代から維持管理の時代へ、そして平成の水道法の改正とともに基盤強化の時代へと変化してきたわけです。新しい令和の時代を迎え、もう一度私たち水道人の責務を考え直すこともの必要だと思います。

しかし、どのように世の中が変わろうと人々の生活のため水道サービスを維持していくことは必要であり続けることでしょう。私たち水道に携わる者が自覚と誇りを持って、駅伝のタスキをつなぐように、将来の世代に伝えていく必要があります。人材育成、施設の維持管理に必要な予算・人員の確保、情報化社会への対応、施設の耐震化・老朽化対策、広域化、官民連携、温室効果ガスの削減対応など様々な課題に果敢にチャレンジしていく必要があると考えています。

今こそこれまで培ってきた関西ウォータークラブ関係者の結束力を発揮し、この厳しい状況に打ち勝っていっていただきたいと念じてやみません。

この先の50年、100年を見据えて、関西地方の水道人が集うこの会がますます発展していくことを期待しつつ、お祝いの言葉とさせていただきます。

関係者の結束力発揮を
水道人の責務考え直す



Nakashima Technos
ライフラインを支え、人々を幸せに。
株式会社ナカシマテクノス
代表取締役 柏木 秀嗣
本社：〒670-0944 兵庫県姫路市阿保甲878 TEL.079(281)7088
拠点：本社・東京支店・大阪支店・豊岡営業所

日本水道協会指定検査工場
国土交通大臣許可（般特-25）
第17835号
安心をつなぐ 一貫体制
東海鋼管株式会社
代表取締役 乾 公昭
本社 〒457-0005 名古屋市南区桜台2丁目5番24号 TEL 052-822-8577
URL http://www.tokaikoukan.co.jp/
支店 東京・大阪
営業所 仙台・新潟・名古屋・岐阜・広島・松山・福岡
出張所 盛岡・横浜・鹿児島・沖縄
工場 岐阜第一工場・第二工場・第三工場・第四工場・姫路工場
その他 工事部・技術部

プラス発想で……
未来環境を創造する
■エバラの風水力機械（ポンプ、送風機）
■水処理設備・環境関連各種システム
■東芝の上下水道用電機システム
■沈砂池関連機械設備
ISO 9001/14001 JACO
QC02J0152
EC98J1084
朝日企業株式会社
代表取締役社長 村上博崇
●本社 大阪市北区天満二丁目7番30号 ☎06(6357)9873
●名古屋支店 名古屋市中村区名駅南4丁目8番15号 ダイドー名駅南第二ビル ☎052(571)5303